

## 背を押す人に

六月八日から三日間、本山宥清寺では「第 218 回 本山奉仕」が開催されました。本山奉仕というのは、全国のお教務方やご信者さんが本山の御宝前に直接お給仕をさせていただく場として、昭和二十八年に始まったご奉公です。全国各地で活躍される重鎮の御導師方も、この時ばかりは本堂の回廊を雑巾がけし、箒を手にして境内を清め、率先して本山のお祖師さまにお仕えをされた良き伝統を継ぎますが、今は毎年の実施が「宗制」という宗門の規則に定められ、所管として弘通局が運営を担当していますので、私も参加しました。

ただ、今回のコロナ禍の中の開催は、最初から課題が山積みでした。慣例として本山に寝泊まりしての二泊三日のご奉公ですが、感染予防の観点では、全国から人を集め、寝食を共にする企画は危険です。しかし、昨年は今よりコロナへの備えが分からず、大学の寮でのクラスターも出ましたので、「大勢で泊まるなぞ、とんでもない」との声で満場一致の中止となりましたが、それから一年。世間も工夫してコロナと戦う中では、簡単に中止は選べません。「本山の御宝前にお給仕する」というご奉公の性格上、オンラインでの代用も出来ず、ハードルの高い挑戦でしたが、「コロナの中でも工夫して、伝統を守ったという実績を作ろう」と開催に向けての舵を切りました。

ところが五月に入り、変異株の蔓延を抑えられない大阪府が、月末まで延長した緊急事態宣言を再延長する可能性が報じられます。当然、同じ経済圏の京都も同調し、緊急事態宣言の中での本山奉仕となる確率も高まりました。そこで本山と協議し、クラスターが本山に出て堂舎が閉鎖されない限り、万全の対策をして緊急事態宣言下でも実施する同意を取りました。布教区一名の二十九名募っていた参加者は、支庁一名の十一名に変更。参加者には事前にPCR検査キットを送り、陰性の確認を当日前に取りました。奉仕の合間の講義は百六十畳の法悦殿(大広間)に十数名で机を並べ、オンラインの実践講習など非接触のプログラムも行いました。寝場所は大広間をやめて個室を確保。本山の地下食堂で皆といただく食事も弁当に切り替え、黙食しました。結果、当初は「緊急事態宣言の中で実施しないといけないのか」「本山までの移動を家族が反対している」等と言う方に、「緊急事態宣言でも五千人の観客を容れたイベントをし、学校や職場も対策をしながら動いている。普段のご奉公を簡単に中止せず、続ける工夫を一緒に考えて欲しい」「今回の挑戦で得たことを、支庁内や各寺院のご奉公に活かして欲しい」と説得したりもしましたが、「来て良かった」「コロナでもやろうと背中を押してくれてありがとう」という感想も聞こえた、有難いご奉公となりました。

七月二十四日(土)、二十五日(日)は開導会を、二日間五座奉修で勤めます。初挑戦ながら一座八十名、最低四百名は参詣いただける体制を作ろうと、本堂内の換気量など事務局も対策を練っています。長引くコロナ疲れで参詣の足が鈍った方もあるでしょうが、すぐに「やめとけ」と言う人が増えた中で、ぜひ背を押して欲しいのです。

(松風寺月報 令和3年7月号)